

## 令和5年度 三校合同課題研究発表会（1・2年探究科学科）

令和5年12月17日（日）、探究科学科のある富山高校、富山中部高校、本校の三校による課題研究発表会が、富山国際会議場で開催されました。今年度は観覧制限のない発表会となり、三校の探究科学科1・2年生や教員、指導を仰いでいる大学教員のほか、他校中・高校生や保護者も多数観覧し、熱気あふれる発表会となりました。

開会式の後、三校の代表班が順にステージ上で発表しました。最初に富山中部高校生物2班が「ナメクジの行動と記憶」、次に本校地歴公民3班が「女紋どんなもん??～富山県徹底調査～」、最後に富山高校化学2班が「名触媒チタン 青色（メチレンブルー）の消失」をテーマに、プレゼンテーションを行いました。

発表後の質疑応答では、研究方法や研究結果に対しての疑問や、補足説明を求める質問等が次々と出され、質問者に対しても称賛の拍手が送られました。

午後からは、57班が各2回、交代でポスターセッションを行いました。発表者は、研究の成果を、ポスターだけではなく、タブレットや自作の資料等を用いて、熱心に発表していました。大学・高校の先生のみならず、高校生からも様々な質問が出され、新たな気づきや刺激を得る貴重な機会となりました。

閉会式ではまず、各校代表生徒による感想発表がありました。課題研究発表会が盛大に実施できたことや共に高め合える仲間への感謝とともに、この成果を今後も受け継いでいってほしいという願いが述べられました。

最後に、大学の先生から講評をいただきました。理系分野は富山大学理学部の柘植教授から、研究は総合力であり、調査結果から新しいものを見つける力や人に伝える力を磨いてほしいということ、人文系分野は富山大学人文学部の宮城准教授から、よい質問とは何かを追究してほしいということなど、アドバイスをいただきました。

### <生徒の感想>

- ・高岡高校だけでなく富山高校や富山中部高校のポスターセッションからも課題研究について知見を深めることができ、来年の活動への刺激になった。（1年）
- ・質問するのに技術が必要だとわかった。まずその内容を理解できなければならない上、そこから自分の質問を見つけ、その内容を相手に伝えるようにまとめなければならない。質問力をつけたい。（1年）
- ・同じ分野の研究でも取りあげるテーマは全く異なっていて、課題はいくらでも発見できるものなのだとわかった。どの研究も考察の着眼点が自分にはない発想のものばかりで面白かった。来年は、自分も楽しく、見る人にも楽しい課題研究をしたい。（1年）
- ・ポスターの文字数を最小限に抑えながらも、ポスターを見るだけで内容が理解できるようにまとめているものが多かった。ポスターにはない情報をタブレット等で提示している班も多く、見習いたいと思った。（2年）
- ・牛乳からプラスチックをつくる研究や鉄イオンと茶葉から水素をつくる研究など社会課題を解決するための研究をしている班があり、研究の視点が違うと思った。（2年）
- ・質問に対してよどみなくすらすらと答えられるのは、裏に発表では言い切れない多くの研究があるからだと思った。現段階の自分たちの発表はかなり悔しいものなので、納得のいく形になるよう、今からもう少し頑張りたい。（2年）



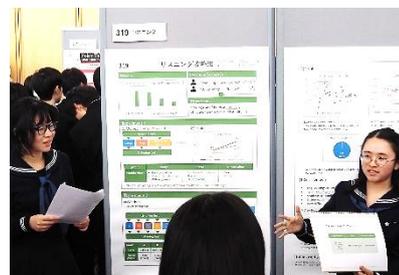
学校代表 地歴公民3班の発表の様子



物理1班の発表「チョーク折リティー」



化学2班の発表「安価で高性能なレドックスフロー電池の開発」



英語班の発表「リスニング攻略法」